

# 花ノ木遺跡2次

2013年

日田市教育委員会



調査区遠景（北西から）



調査区真上から（上が北）





1号竖穴建物跡出土遺物



## 序 文

この報告書は、日田市教育委員会が平成23年度に市道渡里山田線改良事業の工事实施に伴い発掘調査を実施した、花ノ木遺跡2次調査の内容をまとめたものです。

調査では、古墳時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが確認されました。これらの遺構は、隣接する花ノ木遺跡1次調査から続くもので、当時の集落の広がりを知ることが出来る成果が得られました。

こうした発掘調査の内容をまとめた本書が、今後の文化財保護、日田市・朝日地区の歴史を知る上での学術資料や子どもたちが地域を学ぶ社会教材としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査から整理・報告書作成に至るまでにご指導・ご協力をいただきました関係者の皆様方には心よりお礼を申し上げます。

平成25年2月

日田市教育委員会

教育長 合原 多賀雄

## 例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成23年度に実施した花ノ木遺跡2次の発掘調査報告書である。
2. 調査は、日田市土木課が実施する市道渡里山田線改良事業に伴い、日田市教育庁文化財保護課が執行委任を受け、日田市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 遺構の実測は株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、製図はその成果品を用いて担当者が行った。
4. 遺構写真撮影は担当者が行い、空中写真は株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に撮影を委託した成果品を使用した。
5. 本書に掲載した遺物実測図、製図及び遺物写真は、雅企画有限会社に委託した成果品を使用した。
6. 本書に使用した遺構図の方位は、第3図・第10図は真北でそれ以外は磁北である。
7. 遺物写真に付した番号は、挿図番号に対応する。
8. 出土遺物及び図面、写真類は日田市埋蔵文化財センターに保管している。
9. 本書の執筆はI(i)を若杉が、その他を上原が行い、編集は上原が行った。



日田市の位置

## 本文目次

I 調査に至る経過と組織	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
(3) 調査の組織	2
II 立地と環境	3
III 調査の内容	5
(1) 調査概要	5
(2) 遺構・遺物	6
IV 総括	14

## 挿図目次

第1図 調査地周辺位置図 (1/5,000)	1
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	4
第3図 調査区遺構配置図 (1/400)	5
第4図 1号竪穴建物跡実測図 (1/60)	6
第5図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図1 (1/3)	7
第6図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図2 (1/3)	8
第7図 1号掘立柱建物跡実測図 (1/60)	9
第8図 2号掘立柱建物跡実測図 (1/60)	9
第9図 1・2号掘立柱建物跡出土遺物実測図 (1/3)	9
第10図 1号溝状遺構平面図 (1/120)・同断面図 (1/40)	11
第11図 1号溝状遺構出土遺物実測図 (2/3)	11
第12図 落ち込みの土層断面 (1/20)	12
第13図 落ち込みからの出土遺物 (1～3は1/3, 4～5は2/3, 6は1/3)	12
第14図 ビット出土遺物 (1～6は1/3, 7は2/3)	13
第15図 検出時・廃土中から出土した遺物 (1/3)	13



## 挿入写真目次

写真1	遺構検出作業風景	
写真2	調査風景	2

## 表 目 次

第1表	出土土器観察表	15
第2表	出土石器観察表	15

## 写真図版目次

巻頭写真図版 1	調査区遠景（北西から）	調査区真上から（上か北）
巻頭写真図版 2	1号竪穴建物跡出土遺物	
写真図版 1	1号竪穴建物跡発掘状況（東から）	1号竪穴建物跡完掘状況（東から）
写真図版 2	1号掘立柱建物跡完掘状況（南から）	2号掘立柱建物跡完掘状況（南から）
写真図版 3	出土遺物	
写真図版 4	出土遺物	



写真1 遺構検出作業風景

## I 調査に至る経過と組織

### (1) 調査に至る経緯

本調査の原因となった市道渡里山田線改良事業は、市内吹上町から山田町に至る市道の幅幅や路線の新規建設を目的として社会資本整備総合交付金事業の中で計画された事業である（主管課：市土木建築部土木課、以下、土木課）。平成21年10月に文化財保護課が土木課に照会を行った中で、その計画が提示された。谷部に広がる水田の一部である事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当していないものの、県指定史跡の朝日天神山古墳群や小迫墳墓群などの遺跡が所在する台地に挟まれた沖積地に位置することから、遺跡が存在する可能性がある」と判断し、その取り扱いについては事前の協議が必要である旨を回答した。

事業主管課である土木課と調整を行うなか、平成22年度にはこの予定路線に隣接して県営経営体育成基盤整備事業（圃場整備工事）に伴う予備調査を実施した。その結果、遺跡の所在が確認され、予定路線を含む一帯を花ノ木遺跡として新遺跡の登録を行った。

その後、用地買収の遅れなどから工事の着手が平成24年度になったため、平成23年度中に予備調査を行うことで土木課との調整を行ったが、平成23年度には圃場整備に伴う発掘調査（以下、1次調査）により市道の路線内に遺構が広がることがほぼ確実となった。そこで、1次調査より東側の区間の遺跡広がりを確認するため平成23年9月29日に予備調査を実施したが、遺跡が確認されなかったことから、最終的な調査対象区間は1次調査区に隣接する区間（延長約140m）とすることとなった。

その後、平成23年9月30日付けで一部発掘調査が必要との判断を所見とし、大分県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条の通知を差出し、同年10月28日に県教育長より、遺跡の取扱いについて、発掘調査を実施する旨の通知が出された。これに基づき、土木課との調整を行い、平成24年1月27日に発掘調査に着手した。

また、この事業によるその他の工事実施箇所についても照会を受けたが、これらの箇所については遺跡の存在する可能性は低いと判断し、調査対象外とした。

なお、路線図と調査箇所等は第1図のとおりである。



第1図 調査地周辺位置図 (1/5,000)

## (2) 調査の経過

発掘調査は、平成24年1月27日より着手した。以下、その経過を調査日記に基づき略述する。

- 平成24年1月27日 表土除去を開始。
- 平成24年2月4日 表土除去が完了後、作業を中断する。
- 平成24年2月20日 発掘作業員による遺構検出作業を開始。  
同日より、基準点測量及び、調査区内に杭打ち（10m×8mメッシュ）を実施。
- 平成24年2月24日 遺構実測を開始。
- 平成24年3月2日 遺構の掘り下げを開始。
- 平成24年3月15日 遺構の掘り下げがほぼ終了。
- 平成24年3月19日 現場の空中写真撮影を行う。
- 平成24年3月23日 全ての機材を撤収し、調査を完了した。
- なお、整理作業は平成24年6月8日～7月6日まで実施した。

## (3) 調査の組織

調査関係者は以下の通りで、職名・氏名は当時のままとしている。

平成23年度（2011）／発掘調査

- 調査主体 日田市教育委員会
- 調査責任者 合原 多賀雄（日田市教育委員会教育長）
- 調査統括 財津 隆之（日田市教育庁文化財保護課長）
- 調査事務 井上 和泉（同課主査） 若杉 竜太（同課主査）
- 調査担当 上原 翔平（同課主事） 若杉 竜太（同課主査・予備調査担当）
- 調査員 土居 和幸（同課埋蔵文化財係長）
- 発掘作業員 秋吉 新六、石井 百合子、江藤 キミ子、蒲池 妙子、河津 モリ、河津 良成、北澤 幾子、黒瀬 順二、黒川 稔哉、財津 真弓、竹本 和則、谷口 芳江、原田 強、宮木 博幸、宮崎 幸也

平成24年（2012）／整理作業・報告書作成

- 調査主体 日田市教育委員会
- 調査責任者 合原 多賀雄（日田市教育委員会教育長）
- 調査統括 財津 俊一（日田市教育庁文化財保護課）
- 調査事務 井上 和泉（同課主査） 若杉 竜太（同課主査）
- 報告書担当 上原 翔平（同課主事）
- 調査員 土居 和幸（同課埋蔵文化財係長）  
若杉 竜太（同課主査）
- 整理作業員 石松 裕美、伊藤 一美、黒木 千鶴子、  
武石 和美、安元 百合



写真2 調査風景

## II 立地と環境

今回調査を行った花ノ木遺跡は日田市大字小迫字花ノ木に所在し、日田盆地の北部、吹上原台地と山田原(宮原)台地に挟まれた谷部に位置している。この谷部の西側を二串川が南流して筑後川の支流である花月川へと注ぎ、狭長な沖積地を形成している。

遺跡の所在する大字小迫は、日田市の町名区分上では朝日地区に含まれており、朝日地区は大字小迫をはじめ、大字二串、大字山田の3地域で構成されている<sup>(11)</sup>。この朝日地区は近世においては、豊後国日田郡日理(わたり)郷の一部であり、現在の渡里という地名は古代日田の五郷の一つ「日理」として『和名類聚抄』に記載されており古くから知られる地域であったといえる<sup>(12)</sup>。

以下、朝日地区に所在する主な遺跡について時代ごとに概観する。

旧石器時代では、二串西原遺跡で旧石器時代後期～終末期に属するナイフ形石器、台形様石器、細石刃などが10数点確認されている<sup>(13)</sup>。

縄文時代では、尾部田遺跡で縄文後期の竪穴建物跡が確認され、縄文時代の集落立地を考える上で貴重な例となっている<sup>(14)</sup>。

弥生時代では、朝日宮ノ原遺跡で前期～後期の集落と墳墓群<sup>(15)</sup>、小迫辻原遺跡では前期後半～中期後半の集落と墳墓<sup>(16)</sup>、吹上遺跡では前期～後期の集落と墳墓が確認される<sup>(17)</sup>など、周辺台地上に規模の大きな遺跡が所在する。なかでも吹上遺跡6次調査では銅剣や銅戈・貝輪など豪華な副葬品を有する喪棺墓などで構成される墳墓群が確認され、当該期の日田を代表する集落とその中心的な存在を窺い知る事ができる。

吹上原台地北側の辻原台地上に所在する小迫辻原遺跡では、弥生終末期～古墳時代初項にかけて環濠集落と方形環濠が溝によって区画されながら変遷する様相が確認されており、日田盆地の盟主的な存在の豪族居館と考えられると共に、国家形成期の社会状況を解明する遺跡として注目されている<sup>(18)</sup>。そのほか、本村遺跡や尾部田遺跡の調査では、弥生後期～古墳時代初項頃の集落が確認されており<sup>(19)</sup>、小迫辻原遺跡と同時期の台地縁辺部の様相が明らかになりつつある。

古墳時代では、4世紀後半～5世紀前半の粘土郭を主体部とした円墳の小迫古墳<sup>(20)</sup>、5世紀～7世紀中頃の61基の横穴墓が確認された小迫横穴墓群などが知られている<sup>(21)</sup>が、なかでも6世紀前半には、この時期では県下最大級の前方後円墳である朝日天神山古墳2号墳が築かれる。周溝からは埴輪の代わりと考えられる大型平底甕が出土するなど特徴的な様相を示し、続く6世紀後半に築かれた1号墳からは、馬具類、太刀や三輪玉などが出土しており、大和政権との関係を想起させる<sup>(22)</sup>。

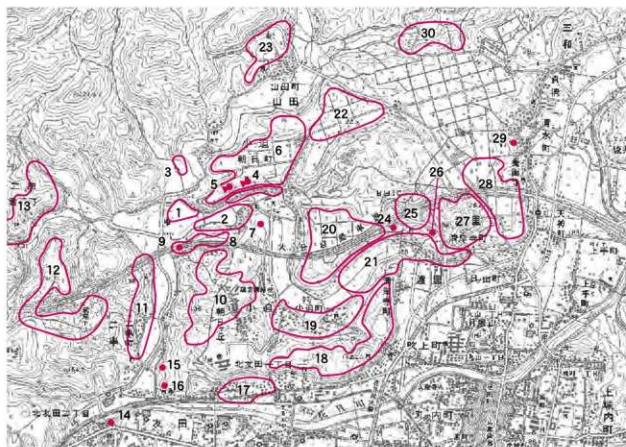
古代では、小迫辻原遺跡でL字に整然と並ぶ大型掘立柱建物群が検出され、そこから郡司最高位にあたる「大領」と書かれた土器が出土しており、郡司の居宅と想定されている。そのほか、本村遺跡などで8世紀代の集落が見つかっており、台地縁辺部に当該期の集落が広がっていたものと考えられる<sup>(23)</sup>。

中世では、小迫辻原遺跡で15世紀の環濠屋敷が6ヶ所確認され、小札や「乙玉丸」銘の青磁碗が出土していることから、武家屋敷が台地上に広がっていたと考えられる<sup>(24)</sup>。また、朝日宮ノ原遺跡A区4号墓で青磁碗、湖州鏡、合子や数珠玉などが一括で副葬された12世紀の土坑墓が発見されるなど<sup>(25)</sup>、日田地域の中世社会を知る貴重な成果が得られている。

近世においては、「鍛冶屋廻り遺跡」で道路や水路などが発見されている<sup>(26)</sup>。

このように、朝日地区は日田市の歴史だけでなく、日本の歴史を知る上で重要な遺跡が数多く所在する地区であるといえる。

- (注1) 日田市町名に関する告示 平成13年3月13日 告示第19号
- (注2) 日田市「日田市史」1990(平成2年)
- (注3) 「九州横断自動車道路建設に伴う発掘調査概報」大分県教育委員会 1984(昭和59年)
- (注4) 行時志郎「尾部田遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書34集 日田市教育委員会2001(平成13年)
- (注5) 土野和幸編「朝日宮ノ原遺跡・谷ノ久保遺跡」日田市文化財調査報告第104集 日田市教育委員会2012(平成24年)
- (注6) 田中聡介・土野和幸・清水宗昭「小迫辻原遺跡Ⅰ」九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書10 大分県教育委員会 1999(平成11年)
- (注7) 渡邊隆行編「吹上IV-吹上遺跡6次調査の記録-」日田市埋蔵文化財調査報告書第70集 日田市教育委員会2000(平成18年)
- (注8) 註6に同じ
- (注9) 若杉竜太「本村遺跡3次」日田市埋蔵文化財調査報告書第51集 日田市教育委員会 2004(平成16年)
- (注10) 小柳和弘編「小迫墳墓群」九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書31 大分県教育委員会 1995(平成7年)
- (注11) 若杉竜太編「朝日天神山古墳」日田市埋蔵文化財調査報告書第60集 日田市教育委員会 2005(平成17年)
- (注12) 註9に同じ
- (注13) 註6に同じ
- (注14) 註5に同じ
- (注15) 若杉竜太「鍛冶屋廻り遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書 第92集 2010(平成22年)



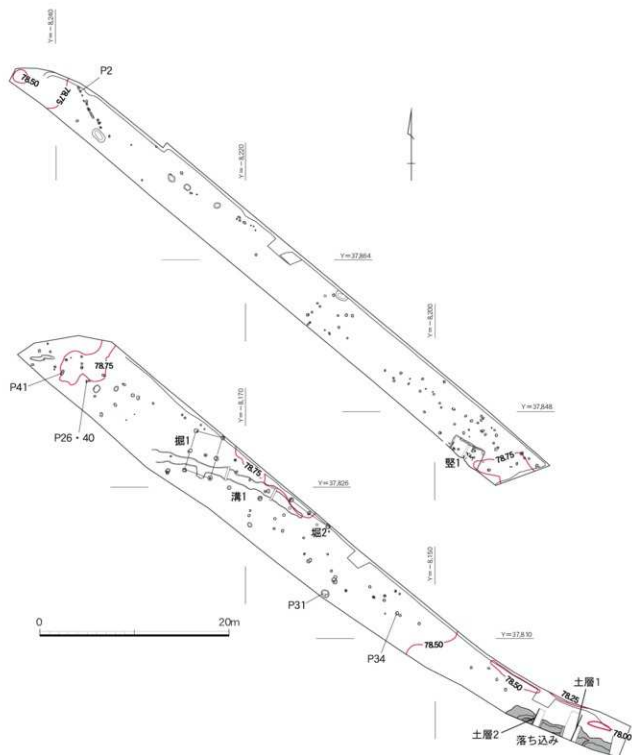
- |             |               |           |             |            |
|-------------|---------------|-----------|-------------|------------|
| 1. 花ノ木遺跡    | 7. 城ノ越古墳      | 13. 君迫遺跡  | 19. 鍛冶屋廻り遺跡 | 25. 草場第2遺跡 |
| 2. 尾部田遺跡    | 8. 小迫横穴墓群     | 14. 三郎丸古墳 | 20. 小迫辻原遺跡  | 26. 草場古墳   |
| 3. 平田遺跡     | 9. 小迫古墳       | 15. 鳥越古墳  | 21. 本村遺跡    | 27. 草場第1遺跡 |
| 4. 朝日天神山1号墳 | 10. 朝日ヶ丘遺跡    | 16. 片山石棺  | 22. 山田原遺跡   | 28. 後迫遺跡   |
| 5. 朝日天神山2号墳 | 11. 二串西原遺跡    | 17. 今泉遺跡  | 23. 山ノ口遺跡   | 29. 用松中村古墳 |
| 6. 朝日宮ノ原遺跡  | 12. 山ノ神(二串)遺跡 | 18. 吹上遺跡  | 24. 草場原古墳   | 30. 谷ノ久保遺跡 |

第2図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

### III 調査の内容

#### (1) 調査概要

花ノ木遺跡2次調査区域は、吹上原台地と山田原（宮原）台地の谷部に位置する。調査地は山田原（宮原）台地の西端部の際に沿って走る道路の改良工事の為、北西から南東にかけて伸びる細長い調査区となっており、長さ約140m、幅は約6.0mで面積は787㎡を測る。調査は、重機を用いて表土を除去し、人力による遺構検出を行っ



第3図 調査区遺構配置図 (1/400)

た後に、遺構を掘り下げ、記録作成を行った。

遺構は、現地表面より約20cm下（標高約78.5m前後）で検出し、検出面直上には現況水田基盤層が堆積しているのみであった。また、地形は調査区中央部が高く南側に向かって下がっている。遺構密度は、調査区中央で高く、調査区南端では、低くなるという状況が見られた。遺構の埋土は、大きく黒褐色土、暗褐色土、灰色土に別れ、地山は黄褐色土を呈している。

検出された遺構は、竪穴建物跡1軒、孤立柱建物跡2棟、溝状遺構1条のほか、ピットが多数検出されている。

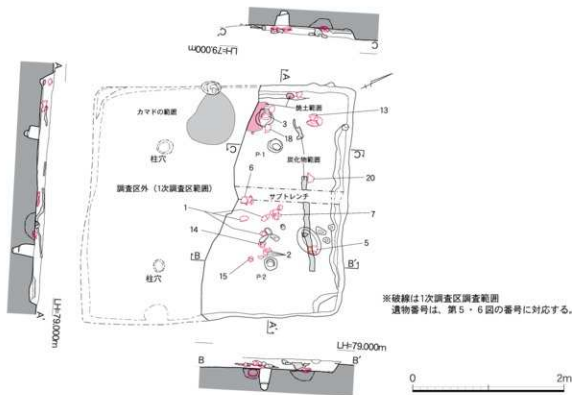
## (2) 遺構・遺物

### 1号竪穴建物跡（第4図）

調査区中央、西側の壁際で検出され遺構の約半分が調査区より西側に広がる。切り合い関係はなく、単独で存在する。埋土は、黒褐色土を呈する。

1次調査で検出されたカマドを敷設した住居跡の残り半分で、遺構の規模は、南北4.0m×東西3.5mで床面までの深さは、約15cmを測り、方形を呈する。

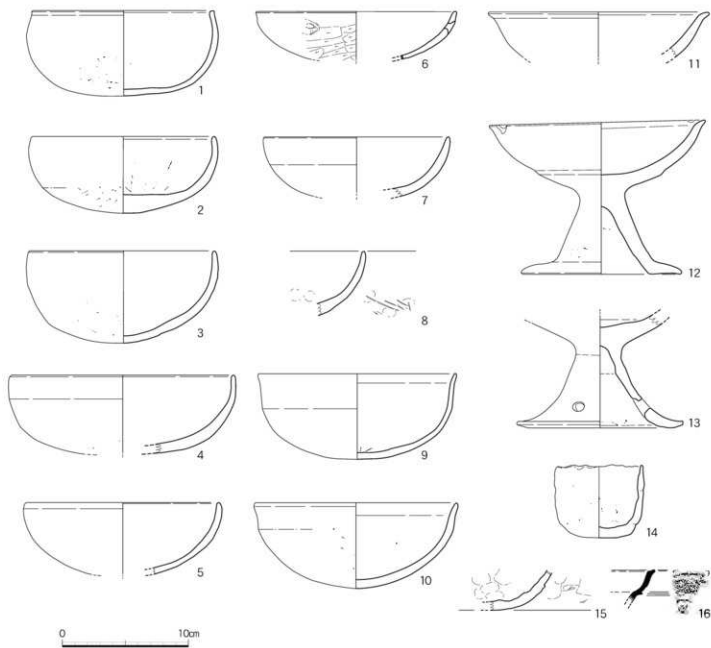
床面で確認されるピットは8基でその内、P-1・P-2は主柱穴と考えられ、検出面からの深さは20～30cmを測る。北西側に深さ約5cmの壁周溝が確認でき、遺構北西壁中央付近では焼土の広がり確認できる。これらは1次調査で確認しているカマドの袖を壊して廃棄した際に広がった焼土の続きであると考えられる。また、北東壁付近には幅0.1m×長さ1.5mの範囲で炭化物が分布している。床面から浮いた状態で確認されたことから、建物跡の廃棄時ないし埋没過程で混入したものと考えられる。



第4図 1号竪穴建物跡実測図 (1/60)

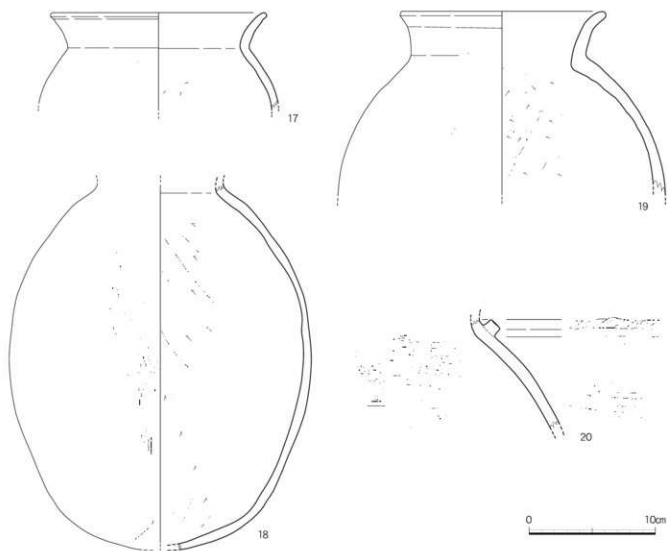
出土遺物 (第5・6図)

1～10は、土師器の碗である。1～4の口縁部がやや内傾し、5～8はほぼ直立ないしやや外に開き、9・10は口縁端部が外反する。1は外面にハケ目が施される。2は外面底部付近でケズリ、底部に厚みを持つ。また、内外面ともに煤が付着している。3は底部から口縁部にかけて煤の付着が見られる。4は底部付近でハケ目が施され、黒斑が残る。5は部分的に被熱による痕跡が見られる。6は外面ヘラ削りが施され、焼成後に口縁部付近に穿孔が施されている。7は表面摩耗のため調整は不明瞭。8は外面指オサエ後工具ナデを施す。9は内面底部付近で工具ナデが施される。11～13は高坏で12、13は部分的に被熱による赤化が見られる。11は高坏の口縁部である。12は坏部内外面と脚部の一部に煤が付着する。13は脚部に3ヶ所の穿孔が施される。14は手握ねの小型鉢である。内面には、工具痕と靨跡と考えられる孔が2ヶ所見られる。15は小型の鉢または壺である。内外面ともに指オサエが施されている。16は須恵器甕の口縁部と考えられる。内外面に自然釉がかかり、外面に波状文が巡る。



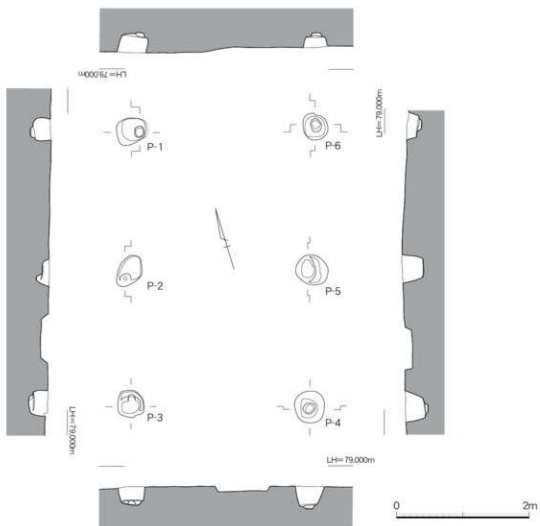
第5図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図1 (1/3)



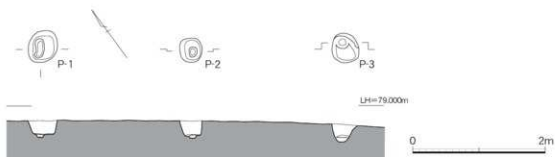


第6図 1号竪穴建物跡出土遺物実測図2 (1/3)

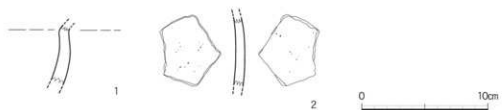
17～19は土師器の甕である。17と19は頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。17は口縁部付近で端部調整の為、横ナデが施される。また、胴部外面に一部黒斑が残る。18は外面底部付近で指押サエ後ナデ消しが施される。19は内面タテ・ヨコ方向のケズリが施され、外面の胴部付近で一部黒斑が残る。20は弥生土器の甕または壺である。頸部から胴部にかけての破片で頸部付近に刻目突帯が付されている。外面は頸部付近では一部でハケ目が施され、胴部付近ではタタキ後にナデが施されている。



第7图 1号掘立柱建筑物跡実測図 (1/60)



第8图 2号掘立柱建筑物跡実測図 (1/60)



第9图 1・2号掘立柱建筑物跡出土文物実測図 (1/3)

### 1号掘立柱建物跡 (第7図)

調査区南側で検出され、ほぼ南北に軸を取る2間×1間の掘立柱建物跡である。埋土は暗褐色土を呈する。梁行方向の柱穴間の距離は約2.9mを測り、桁行方向の柱穴間の距離は約2.3mを測る。規模は、柱穴間の心々距離で南北短軸約2.9m、東西長軸約4.5mを測る。検出面での柱穴の掘方は約0.4～0.5mの円形を呈し、深さは約30～40cmを測る。

#### 出土遺物 (第9図)

1は、P-4から出土した土師器甕の破片である。頸部付近の胴部で、外面に縦方向のハケ目が施され、頸部付近では横ナデが施されている。この他に1号掘立柱建物からは、図示できない須恵器小片が1点出土している。

### 2号掘立柱建物跡 (第8図)

調査区の南側で検出されている。3基のピットが等間隔に並んでいる事から、東西に伸びる櫓列の可能性も考えられたが、東西にピット列が続かないこと、また南側に対となるピットが確認されなかったことから北側に展開する掘立柱建物であると推定している。埋土は暗褐色土を呈する。柱穴間の距離は、約2.4mを測る。心々距離で東西軸は約4.8mを測り、検出面での柱穴の掘方は約0.5mの円形を呈し、深さは約30cmを測る。

#### 出土遺物 (第9図)

2は、土師器甕の破片である。甕の破片は、内外面ともにハケ目による調整が施されている。

### 1号溝状遺構 (第10図)

調査区中央より南側で検出された。調査区を南東から北西に向かって伸びており、南から北に向かって傾斜している。検出時の規模は全長約16m、幅は約1.0m、深さは約10cmで、埋土は淡い暗褐色土を呈する。遺物はほとんど出土しておらず、石楾が1点出土しているのみである。また、隣接する1次調査からは、この続きとなる遺構は検出されていない。

#### 出土遺物 (第11図)

図示している遺物は打製石楾で、石材は黒曜石である。

### 落ち込み (第12図)

調査区の南端で検出された自然地形による落ち込みと考えられる。この落ち込みは調査区の外に向かって広がるために全体の確認を行なうことはできなかったが、調査区全体の地形が東から西に向かって傾斜していること、地形に沿った落ち込みが調査区外に向かって緩やかに傾斜していくこと、明確な立ち上がりを確認できないことなどから、自然地形による落ち込みと判断した。また、本調査に先立って行われた調査区東側の予備調査でも遺物を含む同様の埋土が確認されていることから、この落ち込みは少なくとも予備調査の範囲まで広がっていると考えられる。

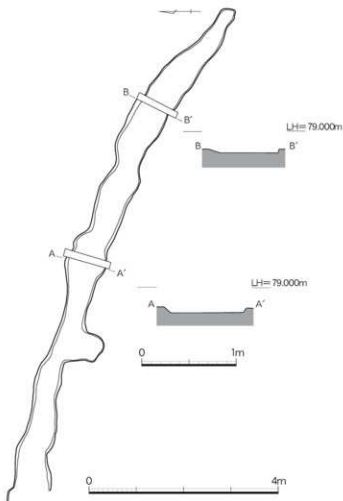
#### 出土遺物 (第13図)

1は黒色土器で碗の口縁部片である。内面が黒色化しており、外面は横ナデ、内面にはミガキが施されている。2は土師器甕で口縁部から胴部にかけての破片である。口縁は頸部からやや反しながらかほぼ直線に立ち上がる。内外面ともに、ハケ目の後にナデ消しが施され、内面頸部付近で指オサエが見られる。外面では、頸部から胴部にかけて煤の付着が見られる。3は高坏脚部である。外面はケズリ後にハケ目を施している。裾部付近で穿孔が一カ所確認される。4は石匙で石材は黒曜石である。5は縦長の剥片である。石材は黒曜石である。6は打製石斧で石材は緑泥片岩である。

### ビット出土遺物 (第14図)

調査区内では多数のビットが検出されている。ここでは、遺物を含むビットについて報告する。

1はP2より出土した須恵器で、甕の破片と考えられる。外面にはタタキが施され、内面にはタタキを施す際の当て具痕が確認される。2はP41より出土した縄文土器で、鉢の口縁部と考えられる。調整は摩耗のため不明瞭だが、口縁部に刻み目が施され、口縁部より少し下方に沈線が巡る。3はP31より出土した弥生土器で、壺の口縁部である。外面を横ナデ、内面をナデで調整がされている。4はP34より出土した弥生土器で、甕の頸部破片と考えられる。外面には貼付けの突帯が巡る。内面は頸部を境に上方が横ナデ、下方はハケ目が施されている。5はP26・40より出土した弥生土器の甕である。外面全体をハケ目の後にナデで調整しており、内面は底部付近で指オサエや工具ナデが施されている。6はP31より出土した打製石斧である。7はP26より出土した2次加工剥片である。縦長の剥片を素材に右側辺に加工痕が残る。石材は黒曜石である。

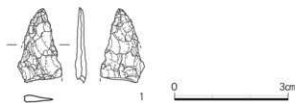


第10図 1号溝状遺構平面図 (1/120)・同断面図 (1/40)

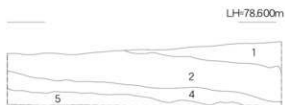
### その他の遺物 (第15図)

ここでは、各遺構に伴わない表土中や廃土より出土した遺物について報告する。

1～4は須恵器で、1は調査区北側の検出時に出土した胴部破片で、外面はタタキを施し、内面には青海波状文タタキが確認される。2は廃土中より発見された甕の破片と考えられる。外面はタタキを施し、内面は当て具痕が確認される。3は検出時に発見された須恵器の胴部破片で、外面は格子目タタキが施され、内面はナデで調整している。4は須恵器の高環裾部で脚部から一気に開く。内面は裾部から脚部の境で指オサエが確認できる。また、焼成前に穿たれた穿孔が1箇所残存している。5は廃土から発見された弥生土器の支脚である。外面の調整は、全体的に平行にタタキが施され、内面は指オサエが確認できる。

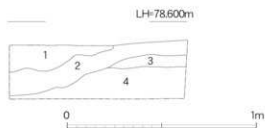


第11図 1号溝状遺構出土遺物実測図 (2/3)



**北壁**

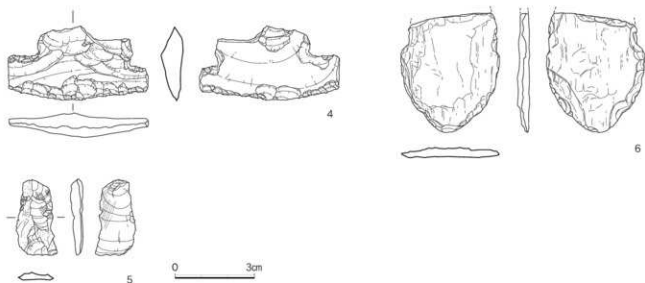
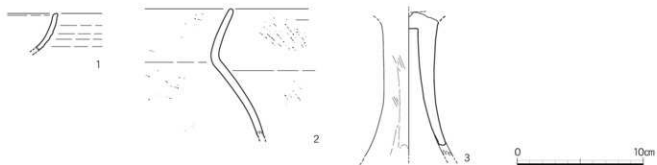
1. 黒色粘質土
2. 灰黄色粘質土
3. 黒褐色砂質土 (ほぼ砂)
4. 黄褐色土 (黒褐色ブロックが混じる)
5. 黄褐色土



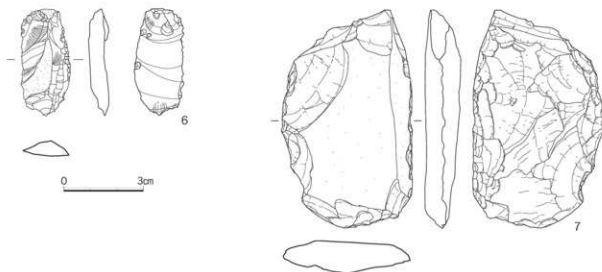
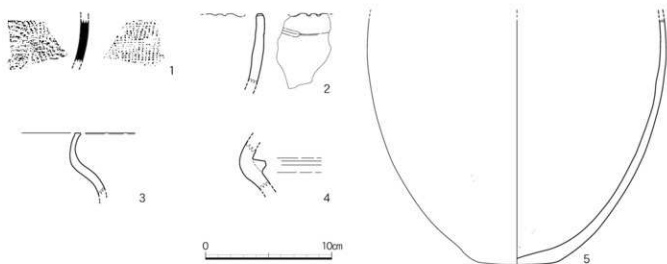
**南壁**

1. 黒色粘質土
2. 灰黄色粘質土
3. 黄褐色土
4. 黄褐色土 (黒褐色ブロックが混じる)

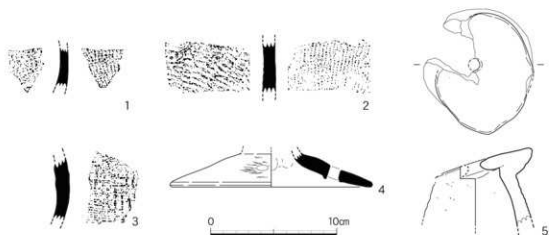
第12回 落ち込みの土層断面 (1/20)



第13回 落ち込みからの出土遺物 (1~3は1/3, 4~5は2/3, 6は1/3)



第14図 ビット出土遺物 (1~6は1/3、7は2/3)



第15図 検出時・廃土中から出土した遺物 (1/3)

## IV 総括

2次調査では、竪穴建物跡が1軒、掘立柱建物跡が2棟、溝状遺構が1条を確認した。以下では、各遺構の時期や性格について検討する。

### (竪穴建物跡)

2次調査で検出された1号竪穴建物跡は、1次調査の内容と合わせることで4本の主柱を持ち、カマドが敷設された住居跡であることが確認される。出土した土器などは、坏が多数出土すること、高坏の脚部がスカート状に開くものと、脚部端部で屈曲して外反するものが見られることから、重藤編年のIV期に相当すると考えられる<sup>(註1)</sup>。また住居跡から出土している須恵器である甕片は、口縁部が内湾し、口縁端部が平坦であることから、中村編年の1期・3～4頃に収まると考えられる<sup>(註2)</sup>。以上の点から、この遺構は古墳時代中期中頃と想定される。なお、住居に敷設されるカマドについては1次調査の報告で行うが、日田地域における初期のカマドと考えられ、導入期のカマドを検討する上で貴重な資料が得られたと考えられる。

### (掘立柱建物跡)

掘立柱建物跡は今回の調査で2棟確認されているが、図示している遺物と須恵器片から大まかな時期として現段階では古墳時代中期以降と推定しているが、詳細な時期や性格などを検討する資料が遺構単独ではほとんどない。しかし、1次調査で奈良時代の掘立柱建物群とその規模や方向が類似していることを考えると、同時期かそれに近い時期の遺構であると考えることが出来る。

### (溝状遺構)

今回の調査で確認された溝状遺構は、出土遺物が石鏃1点と非常に少なく、隣接する調査地からも溝の延長は検出されていないことから、時期の推定などは困難である。

今回の調査では、遺構密度が低いものの朝日地区では類例の少ないカマド導入期の住居跡が確認されるなど貴重な成果が得られたといえる。今後は同時期の遺構が確認されている1次調査の内容と合わせることでこの地域の集落の様相について検討を行っていく必要がある。

### 註

- 1 重藤 輝行 「古墳時代中期・後期の筑前・筑後地域の土師器」『佐田茂先生在賀大学退任記念論文集』2009
- 2 中村 浩 『和泉陶器の研究-須恵器生産の基礎的研究-』柏書房 1981

第1表 出土土器観察表

図版	番号	出土遺構	種別	器種	法量(cm)			調整		胎土	焼成	色調			備考	
					口径	器高	底径	内面	外面			内面	Hue	外面		Hue
第5図	1	1 壺	土師器	碗	14.3	6.8	-	指オサエ板ナデ	ハケ目・ナデ	C	良	褐色	5YR6/6	同じ	一部合成還元	
第5図	2	1 壺	土師器	碗	14.4	6.1	-	工具ナデ横ナデ	ケズリ・横ナデ	C・A・E	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	にぶい黄褐色	内外面にスガが付着	
第5図	3	1 壺	土師器	碗	14.7	7.3	-	ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ目	A・C・E・D	良	にぶい黄褐色	7.5YR5/4	にぶい黄褐色	外面にスガ付着、一部合成還元	
第5図	4	1 壺	土師器	碗	17.7	(6.2)	-	ナデ・横ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ目	A・C・E	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	同じ	外面に黒炭があり、	
第5図	5	1 壺	土師器	碗	(15.3)	(5.7)	-	厚肌のため調整不明	厚肌のため調整不明	A・C・E・D	良	にぶい黄褐色	5YR6/4	にぶい赤褐色	5YR5/4	外表面に黒炭あり
第5図	6	1 壺	土師器	碗	(15.8)	(3.8)	-	ナデ	横ナデ・ナデ・ハケ目	A・E	良	褐色	5YR7/6	褐色	5YR6/6	焼成還元
第5図	7	1 壺	土師器	碗	14.6	(4.8)	-	不明	不明	B・A・C・D	良	褐色	5YR6/6	褐色	5YR6/6	反転還元
第5図	8	1 壺	土師器	坏・碗	-	(5.1)	-	指オサエ横ナデ	横ナデ・指オサエ・ナデ(工具痕)	A/D多量・C	良	褐色	5YR6/8	明赤褐色	5YR5/6	焼熱小?
第5図	9	1 壺	土師器	碗	(15.6)	6.8	-	ナデ(工具痕)	ナデ	A・C・D	良	褐色	7.5YR7/6	にぶい黄褐色	10YR7/4	反転還元
第5図	10	1 壺	土師器	碗	(16.0)	6.8	-	工具ナデ横ナデ	ケズリ・横ナデ	A・C・D	良	にぶい黄褐色	5YR7/4	褐色	5YR7/6	一部反転還元
第5図	11	1 壺	土師器	高坏	(17.4)	(3.6)	-	横ナデ	横ナデ	A・C・E	良	褐色	2.5YR5/8	褐色	2.5YR6/6	反転還元
第5図	12	1 壺	土師器	高坏	17.0	12.0	12.5	指ナデ・工具ナデ	指オサエナデ	A・C・E	良	褐色	5YR7/6	褐色	2.5YR6/6	内面に黒炭があり、外表面にスガ付着あり
第5図	13	1 壺	土師器	高坏	-	(9.0)	(13.2)	ナデ・ケズリ	ナデ	A・C・D	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	にぶい黄褐色	焼成後に3箇所厚肌被膜あり	
第5図	14	1 壺	土師器	小型鉢	-	(3.2)	-	指オサエ	指オサエナデ	A・C	良	褐色	10YR5/1	にぶい黄褐色	10YR7/4	フツクキマ?
第5図	15	1 壺	土師器	中鉢	(6.7)	5.8	4.3	指オサエナデ	指オサエナデ	A・C・E	良	にぶい黄褐色	7.5YR5/2	同じ	外面に黒炭、一部合成還元、内面にスガ付着あり	
第5図	16	1 壺	須恵器	鉢	-	(2.6)	-	回転ナデ	回転ナデ・波状紋	E	良	黄灰色	2.5Y3/1	黄灰色	2.5Y3/1	外表面に自然釉の付着
第6図	17	1 壺	土師器	甕	(16.8)	(7.7)	-	横ナデ・ナデ・ケズリ	横ナデ・ハケ目	1(多量)・C・A・E・D	良	灰白色	2.5YR/2	同じ	反転還元、外面に黒炭あり、	
第6図	18	1 壺	土師器	甕	16.0	(14.6)	-	横ナデ・縦方向のケズリのうち横方向のケズリ	横ナデ・ハケ目・指オサエのちナデ	C・A・E・D	良	にぶい黄褐色	7.5YR6/2	同じ	焼成後に厚肌一部合成還元、一部反転還元	
第6図	19	1 壺	土師器	甕	-	29.1	-	ナデ・ケズリ	ハケ目・指オサエ・ナデ(工具痕)	A・A・C・E・D	良	にぶい黄褐色	7.5YR7/2	同じ	一部合成還元反転還元	
第6図	20	1 壺	弥生土器	甕小甕	-	(8.9)	-	ナデ・ハケ目	横ナデ・縦方向のケズリ・タタキのちナデ	A・C・D	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	同じ		
第9図	1	1 甕	土師器	甕	-	(4.7)	-	ナデ	横ナデ・ハケ目・ナデ	A・C	良	灰褐色	7.5YR6/2	灰褐色	7.5YR5/2	
第9図	2	2 甕	土師器	甕	-	(5.5)	-	ハケ目	ハケ目	A・C・I	良	灰白色	10YR7/1	浅褐色	10YR8/3	
第3図	1	落ち	黒色土器	碗	-	(3.0)	-	横ナデ・ミガキ	横ナデ	A・C・E	良	黒	N2	淡黄色	2.5YR/3	
第3図	2	落ち	土師器	甕	-	10.1	-	ハケ目のちナデ・指オサエ	ハケ目・横ナデ・ナデ	A・C	良	灰褐色	2.5Y7/2	同じ	外面にスガ付着、一部合成還元	
第3図	3	落ち	土師器	高坏	-	(11.5)	-	ナデ	ナデ	A・C	良	にぶい黄褐色	7.5YR7/4	にぶい黄褐色	7.5YR7/4	外面にスガ付着、一部合成還元
第4図	1	P2	須恵器	鉢	-	(3.4)	-	当具痕	タタキのち力キ目	C・A	良	にぶい黄褐色	5YR7/4	同じ		
第4図	2	P41	縄文土器	鉢	-	(5.6)	-	不明	不明	C・A・D・E	中々頹	褐色	5YR6/9	同じ		
第4図	3	P31	弥生土器	甕	-	(5.2)	-	ナデ	横ナデ	A・C・D	良	黒褐色	2.5Y3/1	にぶい赤褐色	10R6/4	
第4図	4	P34	弥生土器	甕	-	(4.0)	-	横ナデ・ハケ目	横ナデ・ナデ	A・C	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	同じ		
第4図	5	P40・P26	弥生土器	甕	-	(19.6)	7.0	指オサエ・ナデ(工具痕)	ナデ・ハケ目・ナデ	A・C・F	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	同じ	一部反転還元、外面にスガ付着	
第5図	1	検出	須恵器	甕	-	(3.1)	-	当具痕	タタキのち力キ目	A・C	良	褐色	7.5YR7/6	同じ		
第5図	2	廃土	須恵器	甕	-	(3.9)	-	当具痕	タタキ	C・A	良	褐色	7.5YR7/6	同じ		
第15図	3	検出	須恵器	胴部	-	(5.0)	-	ナデ	横ナデ・タタキのち力キ目	A・C	良	にぶい黄褐色	10YR7/2	黄灰色	10YR4/1	
第15図	4	検出	須恵器	高坏	-	(2.7)	(16.1)	指オサエナデ	横ナデ・ミガキ?	A・C・D	良	灰黄色	2.5Y7/2	灰黄色	2.5Y7/2	焼成前厚肌あり反転還元
第15図	5	廃土	弥生土器	支脚	(6.2)	-	指オサエナデ	タタキ・ナデ	A・C・D	良	黄褐色	10YR6/3	浅黄褐色	10YR8/3	一部合成還元	

凡例：出土遺構の落ち込み、法量の( )は取元残存。

胎土土：A：角閃石、B：石英、C：長石、D：赤色粘土、E：白色粘土、F：黒色粘土、G：雲母、H：砂粒、I：金雲母

第2表 出土土器観察表

図版	番号	遺構名	器種	法量 (cm)			重さ	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
第11図	1	1溝	打製石鏃	(2.95)	(1.75)	0.45	1.69g	黒曜石	
第13図	4	落ち	石鏃	2.45	5.55	0.95	11.72g	黒曜石	
第13図	5	落ち	剥片	2.00	1.60	0.50	1.76g	黒曜石	
第13図	6	落ち	打製石斧	(9.40)	7.80	0.90	100.59g	緑泥片岩	
第14図	6	P26	2次加工剥片	4.25	0.95	0.80	5.60g	黒曜石	
第14図	7	P31	打製石斧	17.30	10.40	2.80	624g	安山岩	





1号竪穴建物跡発掘状況（東から）



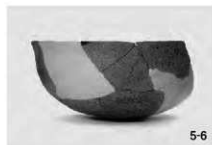
1号竪穴建物跡完掘状況（東から）



1号掘立柱建物跡完掘状況（南から）



2号掘立柱建物跡完掘状況（南から）





11-1



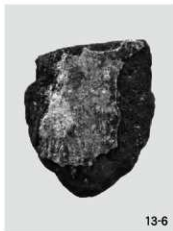
13-2



13-4



13-5



13-6



14-5



14-7



15-3



15-5



6-19

# 報告書抄録

ふりがな	はなのきいせき2じ
書名	花ノ木遺跡2次
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第106集
編著者名	上原翔平・若杉竜太
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1 0973(24)7171
発行年月日	2013年(平成25年)2月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
花ノ木遺跡2次	大分県日田市 大字小迫	44204-6	204379	130°54'43"	33°20'27"	20120127 ～ 20120323	787㎡	市道改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
花ノ木遺跡 2次	集落	古墳	竪穴建物跡1軒 掘立柱建物跡2棟 溝状遺構1条 落ち込み	土師器・須恵器 石器(石鏃・石斧)	

<b>要約</b>	<p>調査地は、日田盆地北部の吹上台地と山田原台地に挟まれた谷部に位置し、西側を流れる二串川が沖積地を形成している。調査の結果、竪穴建物跡1軒、掘立柱建物跡2棟、溝状遺構1条の他、ピットは約50以上が検出された。</p> <p>竪穴建物跡は、カマドを敷設する4本柱の建物で南北4.0m×東西3.5mの規模を持ち、出土遺物から古墳時代中期中頃と推測される。これは、朝日地区では類例の少ないカマド導入期の住居跡と考えられ、今後導入期のカマドの検討を行う上で貴重な資料と考えられる。</p>
-----------	--

## 花ノ木遺跡2次

日田市埋蔵文化財調査報告書第106集

2013年2月28日

編集 日田市教育庁文化財保護課  
〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1

発行 日田市教育委員会  
〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1

印刷 尾花印刷株式会社  
〒877-0026 大分県日田市田島本町8-8



日田市